

# アイリス Letter

## 保護者の皆様へ

2022年6月30日発行  
第3号  
広島女学院中学高等学校



### 聖書のことば

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書 5章9節

出合いの1カ月だった6月が終わります。13日から18日の平和を祈る週、18日の特別礼拝、21日高校文化講演会、25日高校グローバル研究成果発表会がありました。また、6日から10日の1週間は、面接週間でした。これらの多くの出合いを通して、生徒のみなさんは何を感じましたか。

18日の特別礼拝の講師は、西浦昭英先生でした。沖縄に移住し、基地の問題をはじめ平和のガイドをなさっている方です。小さく弱いものに多くの負担が負わされている現実の世界でも多く見られますが、今日の前にあることに全霊を懸けて取り組む大切さを改めて教えていただきました。

21日の高校文化講演会は、能楽師の安田登先生と琵琶奏者の塩高和之先生をお迎えしました。「『過ちては則ち改むるに憚ること勿れ』という言葉覚えておきなさい。能は、過去のものから自分を知り、自由を得るものである。」と言われました。聖書に、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。(ヨハネ8.32)」とあります。人間は、この自由を得るために、古今東西歩んできたのだと思います。また、最後に、「夏目漱石の夢十夜」を演じてくださいました。照明を消した状態で、先生のお声を聴き、所作を感じながら、やはり感性を豊かにすることが何より大切だと強く感じました。

25日の発表会では、生徒の皆さんが大切にしていることをより深いレベルで探求する姿に感銘を受けました。ありがとうございました。

7月になります。生徒の皆さんは、きちんと勉強し、期末テストに臨んでください。そして、自分の時間をもつことができる7・8月にたくさんの方にチャレンジしてください。ワクワクしていますか。保護者の皆さま、子どもたちは毎日、たくさんの方に会い、取り組み、本当に多忙です。夏休みの期間中、いつもより対話の時間を増やしてみてください。

(校長)



## 平和を祈る週（6/13～6/18）

18日（土）の特別礼拝では、沖縄から西浦昭英先生をお迎えしました。西浦先生は、東京の聖学院高校の数学の先生でしたが、修学旅行で沖縄と出会い、キリスト教学校の先生たちの沖縄研修などを企画され、退職後、沖縄に移住し、平和ガイドや辺野古の問題などに取り組んでおられます。

礼拝では、「平和を実現する人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイによる福音書5章9節）の聖書箇所を選ばれ、「沖縄から平和を考える～平和を実現するとは？キリスト教と非暴力」と題してメッセージをいただきました。はじめに元数学の先生らしく、「日本の人口の約1%の沖縄に70%の基地が集中している。それは100kgの荷物があるとすると、一人が70kgを持ち、あとの99人で30kg、つまり一人約300gずつ持つということ。また1年間で330日の掃除当番があるとして、沖縄の人は一人で231日働き、他県の99人の人たちは一人1日だけ働けばいいということ。」というその格差の大きさをリアルに感じさせられました。女学院でも高2で沖縄修学旅行に行きますが、4人に一人が地上戦で亡くなるという悲惨な戦争体験を持つ沖縄の人たちが、今も過重な基地負担によって苦しんでいる現実を知らされました。

一方で、沖縄で基地返還を求める平和運動を最初に始めたキリスト者、阿波根昌鴻さんを紹介されました。阿波根さんは、米軍に対して訴える時も、肩より上に手を上げず、聖書の言葉を使って「剣を持つ者は剣で滅びる。基地を持つ国は基地で滅びる。核を持つ国は核で滅びる。私たちはアメリカの幸せを願っている。アメリカが滅びるようなことには協力できませんよ。」と穏やかに語りかけ、非暴力によって基地の返還を実現してきた「沖縄のガンジー」と言われる方です。

最後に、「聖書は戦争や暴力を否定し、少数者の権利を大事にしている、聖書を通してこれからも平和について考えていってほしい」と話されました。

週間中、中学では礼拝委員が放送で、広島以外の出身の先生方の平和やヒロシマについての思いをインタビューし流しました。ハンガリー出身のアーゴタ先生からは「隣国のウクライナのことで心を痛めている。他国の民族を尊敬し協力しあうことが大切」というメッセージをいただきました。週間中の募金、50,515円は国連難民高等弁務官事務所を通してウクライナなどの難民支援のために送ります。また8・6平和祈念式で女学院の原爆慰霊碑に捧げる千羽鶴を折りました。

高校の昼のつどいでは、「部落解放運動と女学院」というテーマで鳥井新平先生（元近江兄弟社小学校聖書科）のオンラインでの講演や、高3有志による沖縄フィールドワークの報告会、また宗教委員や執行部による平和についての展示などが行われました。

（宗教教育委員会）



## 高校文化講演会

6月21日、4年ぶりとなる文化講演会が開催されました。講師は、能楽師の安田登（やすだのぼる）先生と琵琶奏者で作曲家の塩高和之（しおたかかずゆき）先生です。お二人は、2019年5月にNHKの人気番組「100分de名著『平家物語』」で共演。この回の反響は大きく、2020年にアンコール放送されたほどです。今回はゲンスホールでの共演が実現したのです！「古典を生きる」と題し、『平家物語』にはじまり、夏目漱石の「夢十夜」にまでつながっていく講演でした。『平家物語』のお話の中では、以仁王が挙兵した『橋合戦』を生徒も声を出して演じました。（添付の写真はその様子です。）ホールに集まった高校生全員での謡は迫力がありました。また、教師経験がおありの安田先生のユニークな語りで爆笑の連続。能の舞と琵琶の音色に魂が揺さぶられる90分でした。

帰京の途中、安田先生がこんなツイートを…。「広島女学院での講演が終わって東京に向かっています。高校、全校でホールいっぱいでしたが、とてもいいノリ。「はい。じゃ謡ってみましょう」「ええ！」とか言いながら、ちゃんと謡う。笑いも大きいし、質問もある。考えるときにはちゃんと考える。ありがとうございました。」と。安田先生も楽しんでくださったようです。講演中の一言「今度、授業させてください！」を信じ、第二弾を楽しみにしております。

安田先生、塩高先生、本当にありがとうございました。



『橋合戦』 安田先生と一緒に弓を射る生徒たち

(国語科主任)



安田登先生



塩高和之先生

## 教育実習について

卒業生 17 人が 6 月 1 日から 2～4 週間、本校で教育実習を行いました。コロナウイルスの感染防止につとめ、とにかく何事もなく無事に済んだことに安堵しています。

限られた時間の中ではありますが、実習生たちは教師として生徒に接すること、教えることや学びの姿勢を引き出すことの難しさ、授業の準備の大変さに気付くことができたと思います。彼女たちの今後の活躍を期待します。

(教育実習係)

## 保健室だより (3)

夏が近づき、気温・湿度ともに高くなってきています。ニュースでも報道されているように、熱中症に注意が必要となる季節になりました。

熱中症の主な症状は、「めまい・失神、大量の発汗、頭痛、嘔気・嘔吐、呼びかけや刺激への反応がおかしい、ひきつけがある、38℃以上の高体温」といったものです。

対処法としてまずは、涼しい場所に避難させます。意識のはっきりしている時は、水分を補給し、首や脇の下、足の付け根を冷却し、体全体を冷やします。発汗がある場合は、塩分が失われているため経口補水液をおすすめします。意識がはっきりしない、吐き気や嘔吐があり水分補給ができない場合は、すぐに医療機関への受診が必要です。ペットボトルを自力で開け、むせることなく飲むことができるかを、受診の判断基準にされると分かりやすいと思います。

予防には、温度や湿度の把握、こまめな水分補給、体を徐々に暑さに慣らす、無理をしないことが大切です。特に水分補給は必要ですが、1 度に体に吸収できる水の量は、200～250ml です。それ以上の水分をとっても体に吸収されず、尿として排出されてしまいます。そのため、15 分から 20 分に 1 回、喉が渇く前に補給するといいいでしょう。保護者の方は、お子さまがこまめに水分補給のできる量を持参させてください。熱中症は適切な予防と早期の適切な処置で重症化を防ぐことができます。「それほど暑くないから大丈夫」という思い込みや「睡眠不足、朝食の欠食」は危険です。生活リズムの整った生活を意識し、熱中症を防ぎましょう。



(保健室)

## 心の健康 (3)

7 月の学校生活は、月の前半と後半とで大きな違いがあります。前半は期末テストで、後半は夏休みです。状況に見合った子ども達への心配りが要る 7 月です。

前回ではストレス解消のヒントを頭文字順にお知らせしました。今回からは 1 つずつ少し詳しくお伝えします。

### S-sport ・運動をしよう

人の心と体はうまくつながっています。心配事が続くと胃が痛くなったり、潰瘍ができたりと心因性の身体症状が出ます。また、体が疲れすぎると、イライラしたり、気分が滅入ったりします。これらは心身が関係していることを示しています。スポーツは体を鍛えるだけ

でなく体の方から心に働きかけることとなります。ストレッチなど意識的に体を動かすことで機能も血液の循環も良くなり、爽快な気分となり、ストレスも自然に解消します。

期末テストやテスト返し、夏休みと状況がいろいろ変化するこの時期ですが、意識して運動を毎日の生活の中に入れてみましょう。

(カウンセラー)



## 生徒の活躍

《中学》

◇小倉百人一首競技かるた 第54回全国女流選手権大会C級2組 準優勝  
W. C (3-4)

◇中学放送部

第42回広島県中学校放送コンテスト  
テレビ部門 3位 (全国大会へ進出)  
総合3位

◇中学卓球部

広島市中学校卓球選手権市大会 U. A (2-2) 個人 2位

◇高校新体操部

第75回広島県高等学校総合体育大会 新体操の部  
団体 優勝→インターハイ・中国大会出場権獲得

第63回中国高等学校新体操選手権大会 団体 7位入賞

## 報告

故矢野一郎先生(聖書科)のご家族より先生が読まれていた本を90冊、ご寄贈いただきました。(図書館)



## 今月の聖句

「終わりに、兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。」

### コリントの信徒への手紙二 13章 11節

2022年度「平和を祈る週」高校の企画は、上述の聖句に基づく「思いと祈りを一つに」というテーマを用いて、様々な企画が行われました。「平和」とは、「違い」と「違い」を認め合い、支え合うものであらうと思われていましたが、今年度の企画を通じては、そうした見解には再考察の余地があることに気づかされました。なぜならば、「違い」と「違い」を認め支え合う側面のみならず、「思い」と「祈り」等を一つにする側面も欠かせない一面であることを生徒たちより教えられたからです。高校入学と同時にコロナ感染症の影響で、我慢を強いられた高3生に対する高2・高1生の配慮が今回の企画の根底にあって、そうした思いは人と人を、または過去と未来を繋いで交じり合う喜びへと導いてくれました。

「我らは神と共に働く者なり」。この言葉の根底にも、そうした思いと繋がりがあってはいないでしょうか？毎朝、一つとなった「思い」と「祈り」が漂う女学院では、その「違い」と「違い」をも認め支え合う新たな「平和」たちが、共に生きる喜びを拓いています。

(聖書科 K・C)

## 7月の行事予定表

1	金	
2	土	(L・総)
3	日	
4	月	期末テスト(中3、高1・2・3) 1限8:55~
5	火	(全学年) 1限8:55~15分休憩
6	水	1限8:55~15分休憩
7	木	1限8:55~15分休憩 女学院大学キャンパス見学会
8	金	テスト予備日(自宅学習日)
9	土	高1・2・3進研記述模試
10	日	
11	月	テスト返却(30分授業)
12	火	
13	水	40分授業 月曜授業 [NC]
14	木	期末テスト素点確認
15	金	
16	土	(L・総)
17	日	
18	月	海の日
19	火	SNSIに関する講演会(中学6限・高校7限)
20	水	終業の日 7限大掃除 8・9限終業礼拝 LHR 面接(7/16,7/20~7/30)
21	木	リーダーブレキャン 勉強合宿 高3補習
22	金	
23	土	
24	日	
25	月	
26	火	
27	水	
28	木	
29	金	
30	土	高3全統マーク模試
31	日	

NC・・・ノークラブデー

※行事予定は変更になることが  
あります

